

| | |
|------|--|
| 山行NO | 山行NO. 1833 |
| 日時 | 2019.08.17(土)晴・高湿 |
| 山域 | 西丹沢・屏風岩山(1051m)東尾根 |
| コース | 長泉6:00-大滝橋発6:57-東尾根-小ピーク8:34-標高点965と思われる標柱-965-南尾根分岐9:45-屏風岩山(山名表示板なし)10:03~10:18-大滝峠上10:57~11:24-ランナー達-沢遊び-大滝橋13:07 |
| 標高差 | 上り 大滝橋約450m~屏風岩山1051m=約601m 下り // |
| 参加者 | GT、KH、GM、HT=4名 |

暑い熱い一日だった

【HTの報告】

今回は初めての記録です。屏風岩山を目指してバリエーションコース。

7:50出発。歩いて直ぐの所から急登。合谷さんを先頭に登り10分ぐらいで尾根にのった。

藪の中を進み、途中で聞こえる「ドーン!ドーン!」の音。御殿場の演習此処まで聞こえるのかと吃驚した。

暫く尾根を歩いていたらピークがあり暫し休憩する。又、尾根にそって歩き10:05屏風岩山の頂上に着いた。とにかく暑かった。全身ビショリ。頂上には何もなくて寂しいなあと思った。さあ、これから下り。



尾根に乗る



快適な尾根

大滝峠に向かって下り始めたら、直ぐに「たまごだけ」が足元に1本出ていた。収穫!

尾根にそって歩き、暫くすると休憩所があり其処で早目の昼食とする。ずーっと下り続け、途中でトレラン5~6名の団体と出会い少し談笑。「渡渉危ないから気をつけて」と注意を受けた。渡渉何か所目の所で滑滝のようなカッコいい場所で水遊び。誘われるままにジャブジャブと、子供にかえったように戯れた。

これが正に夏の遊び。満喫した道中でした。一時、涼しくなったが車に着いたら下界の暑さにへとへとです。車を走らせて温泉でサッパリした所で予定変更して合谷宅でキャンプ。翌日18日 AM 9:30解散。

【GTの報告】

西丹沢のバリエーション・シリーズ。屏風岩山は、以前、南尾根を上った。今回は、東に延びる尾根の研究。初心者は、地図読みの訓練を兼ねている。

暑い夏だが、暑い夏ほど心身を鍛える。7時50分、大滝橋発。林道すぐのヘアピンから尾根に取りつく。ほどなく東尾根に乗った。植林地は少しヤブが五月蠅かったが、先は綺麗な尾根が伸びていた。

尾根は急登。早くも汗が飛び散る。ただ、前夜の雨で森はしっとり潤い、オゾンが溢れていた。途中、再び植林地があり、鹿柵があって、そこは日当たりが良く、草が背丈ほど伸びていた。自然林は、樹木が密で日光が届かず草は生えない。鹿の食害もある。



右上が屏風岩山

ナシをいただく

東尾根には、・標高965mに標高点がある。・＝標高店の表示。標高点とは、2万5千図作成時、特定の場所の標高を表すものである。ただ、標高点は二種類あり、小数点以下を表示は、現地測量による標高点。そうでないものは、写真測量の標高点という。

同じようなものに三角点がある。これは、高さでなく位置を表す点だ。・965は、小数点がないので、写真測量の点だ。ただ、写真測量とは、よく分からない。樹木に覆われた尾根で、どのように測量するのか??

そんなことを考えながら、標高点はどこかで上っていった。すぐ標高点はあった。三角点標柱より小さいが、確かに標高点だった。

だが、変だった。標高点の位置がおかしい。標高点は、・965だから当然、標高965mになければならない。GPSで確認すると、標柱は、約900mだった。そんなことがあるだろうか。

天下の国土地理院が標高点柱設置を間違った場所に埋めるだろうか??!!しかし、現実は間違いなかった。GPSがない時代なら、正確に分からなかったかもしれない。

今はスマホでも明確な2万5千図が表示され、いまいる位置が正確に表示される。確かにスマホの現在位置は、965mより下だった。ただ、以前スマホで問題があったことがある。

つまり、現在位置の反映が、条件次第で「やや遅れる」現象だった。つまり、スマホを節電モードにしておくと、立ち上げた時、正確な位置を把握するには、ある程度時間が必要ということである。通過後、そんなことが脳裏をよぎった。この疑問を解明するためには、もう一度いくっきゃないね。



またまた快適な尾根



屏風岩山山頂

タマゴダケ

本来の・965で標高点柱は調べたがなかった。(と思う)この先で、左から南尾根が合流する。今回の調査で判明したのは、東尾根は藪が二か所あるから、上るなら南尾根がよろしい。

これで屏風岩山の標高差がある、南・東方面の調査は終了。あと、北東面が一本残るが、ここはちょっと難しそうだ。(後で分かったが、小数点以下がない標高点は、標柱がない)

1050mのジャンクション・ピークをパスして屏風岩山着。ピークには、山名表示板・方向表示板がない。何か淋しいし、名無しの権兵衛さんで可哀そう。次回、付けようか。

そんなこともあり、ここは道が間違え易い。前回はジャンクション・ピークに着いたら、向こうから若い衆がやって来た。ここはバリエーションで、基本的に道はない。まず、よほどの好き者(研究者)でない限り、踏み込まない。

聞けば、「畔ヶ丸に行きます」だった。90度道が違った。山頂から、こちらのほうがハッキリしてい

るので、引き込まれやすい。スマホで確認するように勧めたら、「ああ、分かりました」と踵を返した。このまま下ったら、大変なことになる。

時間が早いので、大滝峠に向かう。直下で「タマゴダケ」をゲット。山の季節は早い。大滝峠上で大休憩。少し早い昼食。自身はそれほど空腹でないが、伊東・富士の参加者は、朝食が早く空腹とのこと。歩行中も「お腹が減った、お腹が減った」と賑やか。(五月蠅い!?)

超大汗だったので、ビアを二本半いただいた。「半」は、GMの一本の半分をいただいた。以前、槍の小屋で「生」を三杯やったことがある。大ジョッキで一杯=1000-。美味しく、養分の吸収が速いので元気が出る。本来、登山中の飲酒は、ご法度だろうが、これまでは問題ない。



大滝峠上 (峠)

ちょっと前、赤岳の天望荘で缶ビアを求めたら「行動中の飲酒はダメ」で断られた。上記の槍の場合は、そこまでは言わなかった。正解はない。どちらも正論だ。判断するのは自身だろう。

ただ、毎日・毎月、事故情報をチェックしているが、当たり前だが、飲酒原因の事故は聞かない。もし飲酒が原因で事故の場合、山岳保険が給付されるかどうか・・・。

大滝峠上から下り。途中でランナーの若い集団に会った。が、「今日は歩きです」だった。この暑さでは無理は出来ない。「下の橋が流され渡渉です」の情報を得た。確かにそこは渡渉だった。普段はそんなことはないが、台風の水が、まだ引いていなかった。



途中、綺麗なスラブ（一枚岩）の沢があった。他の三名は、水遊びを敢行。体が熱を帯びているので、サイコーの爽やかさ。傍らで何処かのカップルが光景を眺めていたが、「ようやるな〜」と「呆れ顔」だった。



綺麗なスラブ

ガラガラの林道を歩き、大滝橋着で終了。暑い熱い一日だったが、それなりに「心身はスッキリ」だった。暑い夏ほど、心身を鍛えなくてはいけない。夕方、GM会員の夏祭りに参戦。ただ、年々参加者が減るようで、淋しいですね。

